

＜今日の説教のポイント 使徒言行録 1章 1-11 節＞

①何もかも私たちが初めて聞く出来事。それを理解するコツは？

イエス様は40日間、使徒たちに現れられ、その後、彼らに「聖霊が降るのを待ちなさい」と言われた後、昇天されました。こんな不思議な話をどうして信じられるのでしょうか？ 聖書の他の箇所から教えられることは、私たちが愛して下さっている神様がおられるということです。その神様がこれらの出来事を起こされたわけですから、これらの出来事にも恵みの意味が込められているはずです。そのことから考えてみることです。

②恵みの意味から考える。すると、神様の出来事が見えて来る！

まず、イエス様が使徒たちに現れられた40日間の恵みの意味は何でしょうか？ 彼らはこの期間に、「イエス様は今も生きておられる！」という確信を与えられたことでしょうか(3)。神様は、使徒たちがそう確信できるためにこの40日間を用意して下さったのではないのでしょうか！

しかし、イエス様はまた彼らのそばから去られました(9)。なぜでしょうか？ イエス様が弟子たちのそばに居続けられた方がよかったですでしょうか。私はそうは思いません。聖書には、イエス様はいなくなったとは記されていません。「雲に覆われて彼らの目から見えなくなった」(9)です。弟子たちは復活の主と共にあった40日間を経て、「どんな災難(雲)が私を覆って主を見えなくさせても、主はいつも私のそばにいて下さっているのだ」、そう思えるようになり始めているのではないのでしょうか。主が見えなくなることは悪いことではなく、どんな時にも主がおられると考えられるようになるために必要なことなのです。聖霊降臨の出来事は、この確信を動かぬものとさせてくれた出来事と言えるでしょう。

③神様が知っておられたらいいこと、私たちが知っておくべきこと。

使徒が「時」について問うたら、主イエスは「それは神様が決めること」と答えられました(7)。私たちは知らなくてもいいこと、神様が知っておられればいいことは沢山あるのです。では、私たちが知っておくべきこと、これさえ知っていればいいということはあるのでしょうか？ あります、私たちが愛してやまない神様がおられること、今も共にいて下さる神様を知って生きる者となることです！ (テサロニケⅡ 3:16, 18)